



6 インドネシア 12州橋梁修復事業

約450橋梁の修復・架け替えを通じ
地域交通の円滑化に貢献

承諾額／実行額 141億4,100万円／114億1,600万円
借款契約調印 1995年12月
借款契約条件 金利2.5%(コンサルティングサービス部分2.3%)、
返済30年(うち据置10年)、部分アンタイド
貸付完了 2002年12月
実施機関 公共事業省道路総局
URL: http://www.pu.go.id/Ditjen_Prasarana%20Wil/index.asp (インドネシア語)

※本事業はインドネシア国家開発企画庁との合同評価を行った。



本事業の目的

スマトラ島、ジャワ島における国道、州道上の橋梁(456橋梁)の補修、架け替えを行うことにより交通の円滑な流れを確保し、両島における人的・物的交流の促進をはかり、同地方の経済の活性化および住民の福祉向上に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) a

本事業が実施された12州においては、不安定橋梁の割合が審査時(1995年)に18%であったのに対し、事後評価時点(2007年)には14%に減少し、経年劣化に歯止めがかかったものと推察される。本事業対象橋梁が修復・架け替えされた道路では事業実施中(1998年)から事後評価時(2006年)までの間に、修復で州平均23%、架け替えで同24%の交通量の増加が認められた。本事後評価で実施した受益者調査(4州、住民83人、運転手56人、事業所26)では、運転手の約4割が事業実施前に橋を通行する際の渋滞を問題と認識し、ほとんどの運転手が事業後に橋を通行する時間が短縮したと認識していた。また、住民の8割近くが市場、4割が職場、3割が医療機関へのアクセスが改善したと認識している。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。



本事業にて改修された橋梁(上)
受益者調査の様子(下)



本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性はきわめて高い。審査時点では橋梁の整備に重点が置かれ、事後評価時では道路の現況を鑑みて、道路・橋梁修復・維持プログラムが策定されている。

事業実施の経済性(効率性) b

本事業は、事業費については計画を下回ったものの、期間が計画を大幅に上回った(計画比167%)ため、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延のおもな要因としては、アジア通貨危機やスハルト元大統領退陣を背景とする経済的、行政的混乱による調達手続の遅れ等が挙げられる。

今後の展望(持続性) b

本事業は、定期的な点検が一部の橋梁で長期間実施されていないという維持管理の問題があるものの、持続性は概ね問題ないと評価される。サイト実査の結果では、橋梁は良好な状態に維持されており、交通の妨げとなっている橋梁はみられなかった。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は高いといえる。事業効果の持続性を高めるために、定期的な橋梁点検システムの実施強化、地方レベルでの技術水準向上、国道・州道に架かる橋梁に関してのBMS(橋梁管理システム)の導入等が望まれる。

開発途上国専門家の意見

本事業は劣化した橋梁を修復し、円滑な道路交通は地域間格差の是正に寄与している。市場、医療機関、学校等へのアクセスも短縮され、生活水準向上にもつながった。

専門家の氏名: Mr. Aristides Katoppo (マスコミ)
ハーバード大卒。現在は、PT. Sinar Harapan紙 会長。専門はジャーナリズム。